

## 第31回 白川・東白川地域公共交通活性化協議会会議録

### 1. 開催日時

令和6年7月17日（水）午後3時から午後5時まで

### 2. 開催場所

白川町町民会館1階大研修室

### 3. 委員（32名中27名出席）

所 属 等	氏 名	備 考
白川町長	佐伯正貴	会長
東白川村長	今井俊郎	副会長
名古屋大学大学院環境学研究科教授	加藤博和	副会長
白川町副町長	安江章	座長
白川町議会議長	藤井宏之	
東白川村議会議長	今井美道	
公益社団法人岐阜県バス協会専務理事	木村治史	
濃飛乗合自動車株式会社運輸事業部長	有路秀彦	
岐阜県交通運輸産業労働組合協議会	山下光生	
大新東株式会社	佐藤久仁	
東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部	豊田智隆	
医療法人白水会白川病院	松本茂	
白川町自治協議会長会会長	今井清美	
白川町商工会長	長尾達美	
白川町観光協会長	細江辰男	
白川町シニアクラブ連合会長	鈴村逸策	
白川町公共交通利用者代表	笹本恵子	欠席
白川町中学校PTA役員	清水一生	
白川町校長会会長	村上欣子	欠席
白川町バス通学高校生保護者代表	塩月洋生	
白川町社会福祉協議会	松山良悟	
東白川村区会長	安江和広	欠席
東白川村シニアクラブ連合会代表	安江浩	欠席
東白川村高校生保護者会代表	伊藤桂介	欠席
中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	山田慎児	代理 黒田 博昭
中部地方整備局岐阜国道事務所管理第一課長	服部敦	
可茂土木事務所施設管理課長	若園賢一	代理 水野 裕文
加茂警察署交通課長	山口雅司	

岐阜県都市建築部都市公園・交通局公共交通課長	城戸協研一	代理 棚橋 典広
東白川村副村長	桂川 憲生	
白川町役場建設環境課長	三ツ石克明	
東白川村役場建設環境課長	有田 尚樹	

#### 4. オブザーバー

所 属 等	氏 名	備考
白川地区地域部会長	今井 和秀	
白川北地区地域部会長	長 尾 隆	
蘇原地区地域部会長	有田 恒文	
黒川地区地域部会長	藤井 秀男	欠席
佐見地区地域部会長	熊崎 吉夫	

#### 5. 会議次第

- 1 会長あいさつ
- 2 副会長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 委員の就任について
  - (2) 令和5年度白川・東白川地域公共交通活性化協議会収支決算について
  - (3) 令和5年度おでかけしらかわ・ひがししらかわ利用実績について
- 4 協議事項
  - (1) 令和6年度地域公共交通計画事業実施計画について
  - (2) ゾーンの見直しについて
  - (3) 佐見地区の運行見直しについて
  - (4) 定期バス白川中央線、白川東白川線の見直しについて
  - (5) 福祉有償運送の見直しについて
- 5 その他
  - (1) 東白川村「つちのこバス」の運行について
  - (2) 地域部会による周知活動について

#### 6. 会議内容

##### 報告事項

- (1) 委員の就任について
- (2) 令和5年度白川・東白川地域公共交通活性化協議会収支決算について
- (3) 令和5年度おでかけしらかわ・ひがししらかわ利用実績について 事務局より説明

(委員)

なるべく分析したいところなので、JR接続便と白川東白川線だったら高校生が利用が多いので高校生の数とこの利用の状況っていうのがどういう関係があるか、普通だったら高校生は過疎地だとだんだん減っていくと、そうすると、単純にその中の7割の利用があるのであれば7割ほど減少してしまいます。この場合は一体どうなっているのか、できれば本当は各地区ごとにわかるといいのですがわかりますか。

(事務局)

申し訳ございません、そこまでの分析については把握ができておりませんでした。

協議事項

(1) 令和6年度地域公共交通計画事業実施計画について 事務局より説明

(委員)

高校進学までに公共交通に対する教育の実施というのは大変素晴らしいと思いました。保護者に向けてもそのような機会があるといいと思うのですが、ありますでしょうか。

また、子どもたちが公共交通を利用する中で、行政からの補助や助成はありますでしょうか。

(事務局)

公共交通の使い方、通学での使い方に関してはもちろん保護者の方へも周知は行っていきたいと考えておりますし、毎年度3月に、今の中学3年生の子の進学先が決まったというところで、JR接続便のバス停の位置を毎年見直ししております。その懇談会というのを3月に行っておりまして、利用しやすいものに毎年見直していくということを取り組んでおります。

公共交通、通学費用の補助支援ということで白川町では、JRの定期を白川口駅で購入をいただいた場合に、現在年間4万円まで補助金とを出しております。補助については、なかなか普段周知の方が弱いと感じておりますので、そういったことも併せて利用と一緒にお知らせをしていきたいというふうに考えております。

東白川村の支援ですが、JRの通学支援もありますし、下宿してみえる方に対しても月額5,000円の補助金を支払っております。通学につきましては全額補助をしております。

(委員)

より柔軟なサービスの研究というのは何をやられるのかなと思ひまして、現在決まっている部分があれば教えていただきたいです。例えば、ニーズの確認というのはどういうふうにするのかなどわかっている範囲で教えていただけたらと思います。

(事務局)

現在のお出かけ白川東白川の仕組みが、ドアツードアの予約制バスというものと、定期バスというのを乗り継いで全体を移動する仕組みとしております。より柔軟なというところで、やはり

そうは言っても、直接ドアツードアで、いろいろな事情があって利用したいという方もニーズとしてございますので、タクシーに近いようなサービスになるかと思えますけれども、現在の乗り合いの仕組みというもののバランスも考え、そういったタクシーに近いサービスというものが検討できないかというふうに現在は思っております。

また、車両として、スクールバス、バス車両も町営バスとして運行しておりますので、大人数で利用したいという場合にワゴン車では9人までしか乗れませんので、そういった場合に柔軟な対応ということでスクールバスを今までよりも活用できないかと、そのようなことを考えております

(委員)

4 ページ 5 ページの各項目については、冊子の31ページに詳しく書いてある内容だと思います。そこで少し疑問に思ったのが、冊子の19ページ、20ページには全計画の実施状況はこうなりましたというのが書かれていると思うのですが、その中で我々業界としては19ページの基本方針で公共交通システムを守るというこの方針に基づく政策2-2という部分が計画にはあって、いろんなことやっていただきたいのですが、この政策2-2については、定着をしてからにするため、今回の第5章に上げなかったというような理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

前回の計画を立てた時期は、おでかけしらかわ・ひがししらかわスタートのタイミングでした。当時の委託事業者が、本日も出席いただいている大新東様でしたが、当初全てのエリアを大新東様に委託をするということは、体制的に難しかったため、19ページの担い手の確保というところは地域のドライバーさんにもご協力をいただいて取り組んでまいりました。この5年間進めていくうちに、大新東様の方でも運転士さんの確保、また体制の強化をいただいて、今の運行ができていているという現状から、運転手の確保という部分では、現状できているということで今回の計画の方にこの内容としては載せていないということになります。

(2) ゾーンの見直しについて 事務局より説明

(委員)

まずタクシーは当然としてデマンドは、ドアツードアで直行してどこでも行ってくれるというのが、かなり売りです。そういったことから便利だというふうにおっしゃる方が多いわけですが、それはタクシー同然ですから、もし乗り合うことができれば、2人乗れば料金が2分の1、3人乗れば3分の1にすることができるのですが、当然2人3人乗ったときは行き先も家も違うので、迂回したり、1人しか乗ってないときもあたりなどその分だけ余分に空車回送するということになるので、決して2人乗ったから2分の1にもならないということです。運転手が足りていると言っていました、なぜ足りているのか、一つの理由としては、なるべく短い距離で乗り合うように走るようにバスセンターの方で工夫して、さらに路線バスが走っているのであれば乗り換えてもらえば、さらにデマンドも短い距離走って乗り換えてもらわなきゃいけないけど、なるべく手厚くいろんなところへ行けるっていうふうに工夫しているからです。

他のところはドアツードアがいいって言ってやっているからパンクしちゃうということなんです。白川だとパンクすることを防ぐために、恐縮ですけど乗り継ぎとかもしていただくということです。乗り継ぎしていただくことで安くできるし、予約も取りやすいというメリットがあります。ただ、予約は取りやすいのですが、これもデマンドだと好きな時間に好きなところに行けるとするのは嘘です。好きなところに行けるようにするとその好きなところへ行ける人がいる時間は、他の人は予約できないので、結局少ない人だけしか予約できないことになってしまいます。そこを白川町は何とかして多くの方が乗り継ぎとかはあるけど、運ぶことができるかということをやっています。これは本来 AI がやることですが、人力でやっているというのが特徴です。そのときに、時間帯の中で三川と白川とか白北の間を動くときに、例えばバスがないとき、あるいはやむを得ず体悪い方とかだったら、なかなか乗り換えは大変だというときには直通することもあるので、そこはとてもバスセンターの方でフレキシブルにやっていただいております。

ゾーンの見直しについては、実は三川と白川はとても近いです。ずっと白川白北の方が遠いところまで行って 200 円なのに、三川に入るのに上がってしまうというのがとても不合理じゃないかとそれから三川はスーパーとかがあるので、他のところから行くにおいてもそこで運賃上がるというのは不合理となるということを考えてときにどうしたらいいかということを追求めた結果としては、三川蘇原地区なので蘇原のゾーンにもなっているのだけれど、三川を白川のゾーンとも一緒にする。両方のゾーンに入るようにした方が、三川の人たちは、アンケートとかとっても非常にご不満なので、短いのにわざわざ戻るマツオカの方まで戻って行って、乗り換えるなんてさらに不合理ですよ。そういうことが起こらないようにできる上に、安くなるということなのでこれは公平性に繋がるし、全体で見ても三川は施設が多いところなので、このゾーンに変えることで、運賃が適正化するということを目的としています。走り方としては今までと変わらないと、ここの運賃が変わることによって走り方が変わることはなくて、走り方は今まで通りよりたくさんの方に乗っていただくためにはちょっと申し訳ないですが、ここで乗り換えていただいた方が他のもう 1 人の人を迎えに行けるのということをやります。どこでもここでバスに乗り継いでもらって行ってくださいというのは、本来、スマホとかで簡単にできることのように思うのですがやれていないです。しかし、白川ではやれていません。そこはめちゃくちゃ、実は先進的なことをやっている、これバスセンターさんのご努力、それから運行の工夫、濃飛バスさんもそこは配慮していただいているということなんです。なのでこれまで不合理だった部分を見直すために、今回こういう提案があるということをご理解いただきたいと思います。

(委員)

黒川だと、日バスに乗り継いだ場合、直接行くと 1 乗車 400 円のところが乗り継ぐと、乗り割を 100 円受けて、300 円で白川口の駅まで行ける状態です。それが三川で直接行っても 200 円、乗り継いでも 200 円ということになると、直接行きたいよっていう方は多いと思います。今直接の対応を、この三川のエリアを直接白川口駅の方まで、デマンドバスで対応しようと思うと、例えば白川病院からの蘇原への帰り、その部分の対応というのが非常に難しくなるので、蘇原で動いている蘇原 GO でその部分に対応するというのは少し難しいかなと思います。

あともう一つは三川方面の小倉橋というところまでであると思うのですが、赤河よりというか、この部分というのは住所は赤河になるんですけども、自治会には三川で所属しています。住所は赤河と

かっていう場所もあり、ここがどちらなのかというところも少し難しいところがあるかなと思いますのでその辺をはっきり決めていただければ対応できるかとは思っています。

(委員)

白川病院は、最初の頃は便利になった便利になったという声が結構聞かれていましたが、最近になってやっぱりそれが当たり前になってきてしまい、今それで不満というのが乗り換えをしなければならぬ部分で出てきてしまっています。そうではないよというのは説明しているのですが、やはり乗り換えがあるというのが今一番不満になってしまっているのも、逆にそれがすごく努力しているよとか、こんなに便利になったというのが忘れてしまっているような感じになってきたというところをお知らせしておいた方がいいかなと思いいこの場で言わせていただきました。

(委員)

ですから先ほどの柔軟なというのが必要になってきます。

やはりタクシーが無いので、本当にドアツードアでとにかく俺は行きたいんだっていう人は、そのタクシー的なサービスを使っていただくただしそれは高いよと。普通に今のシステムを使う場合には、本当に空いているときだったら直通するときもあるけれど、通常は乗り換えるのが基本になっている。なぜなら、乗り換えた方がたくさんの方が乗れるからという、たくさんの方が乗ってないから直通で行けます。直通であっても、それは偶然ということを書いていかないといけないということを思っています。

(3) 佐見地区の運行見直しについて 事務局より説明

(委員)

直通なので患者さんからすると多分良くなると思います。まだ実際にスタッフの方と、この辺のところかどのぐらい予約ができるかとか、その辺のところは合わせてみななければいけないので、そこまで確認ができていませんが、多分良くなるのではないかなというふうに考えられます。またデータ等も取ってもらえるとありがたいなというふうに思っております。

(オブザーバー)

私運転の方をやっておりますので、確かに今まで金山行かれる方も、金山についてもなかなかまだ病院が開いてない、そういう状況でしたので、これも非常に良い改善になろうかと思えます。白川病院さんの方は先ほども申されましたように、時間が1時間ほどしかありませんので、1人や2人それに時間の間で、要領のいい方はやってくる方もいましたけども、大体の方が病院へ9時40分に着いて、病院が出てくるのが12時40分で3時間ほど待っておられましたので、非常に良くなるかと思えます。

それからあとは、今5名で運転手やっているのですけれども、なかなかこの先の運転手候補になる方が見つからないです。今は平日2人で運行しております。午前の部と午後の部ということで1日に2人います、それをスクールバスの運転手さんとうまく分けて1人でできないかということをお考えしておりますけども、そうすると、平日も1人土日も1人で済みますので、人数が、今のようい

なくても3人くらいでもできる可能性が出てきますので、後々ずっと存続していくためにもダイヤをぜひご承認いただければと思います。

(委員)

今のダイヤは佐見で検討してこうなった経緯ですが、今回この1本だけになり、ちょうどいいぐらいの1本、それからその後、ある程度いい時間で帰れるっていうのに揃えられたので良かったと思いますし、今のような話で、なるべく少ない運転手さんで回していけるというのが大事なので、そうなればいいなと思います。自分の中ではこの話が出たときは少し反省というか、もう少し早く自分で出せないのはなぜだろう思っていたのですが、あのときもこの早いダイヤで乗るのかというのを、何回も聞いてみたのですが、こうなったのですよね。結局こうなって、早い方はやはり乗らないと、あともうひとつ80分の乗り換えこれがちょうどですし、寒いときだったら本当にこれはやりたくないという声もあったので、難しかったというのはもう当時から言っていたことなのですよね。なので、その意味では今回ちょっと時間かかったのですがより良いダイヤを見つけていただけてありがたいなということを思います。いろいろと考えて見たらもっといい走り方があるというのはAIが出してくれたりいいのですが、出してくれないものです。人力でやっていかなければならないので皆さんそれぞれのところでご不満あればもちろんこれは常にそうなのですが、全員の意見を全部汲み取ろうとしたら、結局みんな自分で車乗ったり自転車乗ったりするのが一番いいに決まっているのですが、なるべく少ない担い手で多くの方に使っていただけるのはどういうやり方なのかというのを、知恵を絞るとというのがここの役割なのでぜひそういう形で続けていただけるといいなと思います。

(4) 定期バス白川中央線、白川東白川線の見直しについて 事務局より説明

(委員)

特に東白川線の方ですね13時15分発で今までずっと設定していたのですが、JRさんのダイヤ改正によりまして、実際には大体13時18分から20分ぐらいに毎日出発をいたしておりますそれでゆっくり走ればいいのですが、やはり奥まで行ってさらに帰り病院まで入ってくると、帰りのJRの接続が間に合わないということで、こちらの現場の方からも、かなり何とかならないかという意見をいただいておりますので、今回このように変えさせていただくことで、JRの接続も多少余裕ができますし、ありがたいことだと考えております。

あと白川中央線の方もスクールバスといいますか町営バスの方で助けていただくという言い方も変なんですけど、手分けして便数を確保することでゲンキーまで延長することができました。このゲンキーまでの延長もお客様からのご要望いただいていたところでございますので、こちらの方も改正していただけてありがたいことだと考えております。

(委員)

まず東白川診療所に入らないというのは、私が提案したことなんですけれども、もしかすると、樫本とか宮代の北側を通らなくていいのではないかと思います。こちらの方がむしろ人はあるかもしれないので、ここはデータ見ないとわからないところなんですけれども他のことも考えた方がいいかな

と思った次第です。

(事務局)

東白川の中の停留所で行きますと、宮代、神谷橋、加子母というのが旧道の方に入って走っておりますが、実はここ乗車して確認をしたら、ヘビーユーザーの方が見えましてちょうどこの時間でした。朝出かけて帰ってくるとちょうどいいというところでここは外せないというふうに考えております。

(4) 定期バス白川中央線、白川東白川線の見直しについて 事務局より説明

(委員)

今説明いただきましたように、透析の利用の方が今非常に多い関係で、月水金の利用で個別輸送になりますので、1人の方には少し時間をずらしていただいて、1人送って、戻ってきて次の方を迎えに行くという状況が続いておりましたが、同じ地区から同じ時間帯で同じ行き先ですので、今回、相乗りができないかということで提案をさせていただきました。17ページの下の見直し内容についてというところで、透析に限るというふうで今限定しておりますが、今後透析以外で病院受診で同じ時間帯で同じ街区で同じ行き先の病院受診等もそういった利用が増えるようであれば、透析に限らず、臨機応変に対応できるようにしていければと思っております。

(委員)

今回透析のために町内同一医療機関への通院に限るということで変更されるんですけども、同一地区からというところで書いてないので別の地区であっても場合によっては乗り合い輸送をすることがあるということでしょうか。

もしそうなってくると、大幅な迂回をすることになると思うので周知の部分をしっかりしないといけないと思うのですがその対応をお願いしたいです。

(事務局)

同一地区と限定していないのは、例えば蘇原地区を例に挙げますと、白川病院さんまで行く場合に、例えば切井から出発して白川口も通っていくということもありますので、その場合にも一緒に乗れるようにということを想定しております。

(委員)

おでかけしらかわ・ひがししらかわの仕組み自体が乗り継ぎというところを中心にデマンドバスを利用してもらうということですが、利用される方の中で、自力で乗れる方というところで、今ご利用いただいているのですけれど、サポートがギリギリ必要な方というのが、やはり複数名見えております。多少の支えとかであれば当然サポートさせていただきますが、もう介助とか、そういう部分にまだなくなってしまっているようなお客様も見えるのですけども、そういった方には福祉有償の方をご利用していただきたいということをおでかけしらかわの受付の方と、福祉有償の受付の方がうまくやりとりできていないのかもしれないのですけども、うちで乗れない場合に福祉有償さんの方で利用して

いただきたいです。まだそのラインに当たってないというか、福祉有償を使える基準に行っていないというようなところですぐには使えないと思います。そうするとうちのバスも使えないですし、病院に行くことができないということも中には出てくるケースも想定できるので、そういったところの基準の見直しや幅を広げてもらえるようなことはできないのかというところでお聞きしたいと思います。

(委員)

そこは結構狭間のどちらも利用できないって方がやっぱりどうしても出てくるというのは課題でやはり上がってきておりますので、この利用の範囲っていうのを広げるかどうかというのは持ち帰って検討したいと思います。

(委員)

チェックリスト対象者にすればできると思いますが、それはやらないのですか。つまり要支援以上ということですが、福祉有償だと通常は要支援じゃないですが、チェックリストで公共交通利用が困難であるというふうにケアマネさんが判断していただければ、福祉有償の対応になるので、それでやっていけばいいのではないかと思います。そうすると客観的にこの方は普通の公共交通は使えないのかとなります。そういうふうにランク付けされたくないっていう方もおられるので、これはちょっとどうしようもないですが、そこはご本人の考えになるのですが、できればそっちのカテゴリーに行っていただきたいと思います。

ただ、そういうふうに思われるとしたら、福祉有償運送って言い方もしない方がいいのかもしれないですね。いい名前つけておでかけしらかわなんとかのような、おでかけしらかわの一つですが、さっき言ったように柔軟な一つだとして、手助けとかが必要な方はこれがありますよという、そういうカテゴリーにしていけば抵抗なく利用していただけるかなと思います。

この部分については昔からホットで、普通にタクシーだとか、いわゆる今で言うライドシェア的なものと福祉有償運送の間に溝があると、ある人はどっちも使えなくて、あるいはどっち使ったらいいのかわかんないとかってことがありますので、皆さんのそれぞれの状況に応じてこういう動き方があるよっていうことを提案してやっていただくというか、位置付けられればすごく僕はいんじゃないかなと思います。

それで元気になってきたらまた一般的なものを使ってもいいとかそういうふうにやればいんじゃないかなと思います。

(委員)

ゲンキー白川店まで中央線が伸びるというところで、乗り継ぎ場所ですが、今マツオカで基本的に乗り継いでおりますが、今後もマツオカを使うのかそれともゲンキーでの乗り継ぎでもいいのか、どちらにした方がいいのかというところと、乗り継ぎのところ、やはりトラブルが若干出ていますが、そういったところのトラブルに対する対応というところ、例えばですが、14番のマツオカ白川店を12時40分到着の便で帰ってくる方を迎えに行きながら12時46分の今度はマツオカ発、白川口方面の方に、乗せ換えるタイミングでお客さんを乗せて行ったときに、うちは12時40分でお客さんが降りてくるので、12時46分に下ろして、12時40分に降りてきた方を乗せて

蘇原方面へ戻ってきます。その間に今度黒川方面に上がってってしまうバスがあるのですが、それに間違えて乗ってしまって、白川方面に行きたかったのに黒川に行ってしまったという方もみえました。そういったトラブルがやはりありまして、お客さんにとってわかりにくい部分ですので、ほとんどの方の乗り継ぎのタイミングはこちらの方で行っておりますが、やはり今の時間帯であるとか13時台というのが濃飛バスの着発になっていない時間帯があるので、そういったところのトラブル解消というところで例えばわかりにくいときだけゲンキーで乗り換えるというような対応も可能かと思っておりますので、一度検討をお願いします。

#### (事務局)

乗り間違えをするということは何らか防ぐことを検討したいと思いますが、現状のマツオカでの乗り換え、ゲンキーでの乗り換え、その両方ができるというふうに考えております。

特に黒川方面から行く場合、マツオカまでしか中央線が今までだで行っていないのでそこで買い物という方もありましたが、今度ゲンキーでも買い物ができるとなると、マツオカで乗った方を乗せてゲンキーに置いてそこでまた黒川へ帰る方も乗せていくということもあると思っておりますので、予約の段階で受けるのがなかなか煩雑になるかと思っておりますがご対応お願いしたいと思います。

#### (委員)

そのまま何もしないで黒川とか蘇原へ行くと、ただ乗り換える方は、マツオカで乗り換えるでいいのじゃないかなと思います。あるいはゲンキーでもいいのですが、ゲンキーの方が多くの方が行くので、効率はいいのではないかと、それともマツオカに行きたい人の方がデマンドが多いのであればマツオカの方がいいです。どっちがいいかというのはちょっと長短あるかなと思いますし、あとはバスで今回はマツオカもゲンキーも両方とも行くので、そこで買い物されたらその後に来てもらうので、それはそこから行けばいいということです。

あと荷客混載のことがこの5年の計画の中にあるということで、先日講演したときにもお話したのですが、よほどライドシェアより荷客混載の方が元々走っていますから。そしたら荷物運ぶときに人を運ぶ、人を運ぶときに荷物を運ぶっていうことができたとしたら、それだけで減らすことができるんじゃないかというふうに思っているのですが、ただこれはここには貨物の事業者さんはいないわけですから、協議もできないし、今の段階だと何もできないのですが、そういうことは例えば今年やらないうてなればずっとできなくなると思うのでどこかで踏み込んでやれないかなと思うています。ここで宅配とか郵便の皆さんと1回話して何かできることないかなという議論をたくさんするといいのではないかと思います。

## 5 その他

### (1) 東白川村「つちのこバス」の運行について 事務局より説明

#### (委員)

つちのこバスは財政的にも問題なく、今後も無料で続けていけるのでしょうか。

(事務局)

問題なく続けていける予定です。

(2) 地域部会による周知活動について 事務局より説明

(事務局)

本日も活発な議論をいただきましてご相談申し上げた、全ての案件についてご承認をいただきましてありがとうございました。

引き続き満足度の高い地域公共交通のためにご協力をお願いしたいと思います。

それでは本日第31回白川・東白川地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。  
ありがとうございました。

会議終了 午後5時